

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連	良く なっている やや良く なっている	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・エコカー減税とエコカー補助金の効果から、前年を上回り、前々年比でも107%を見込む。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	単価の動き	・季節柄、辞書のまとめ買いが多いが、前年以上に売れている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・2月に引き続き、来客数が増えている。前年の東日本大震災の影響は薄れ、景気が持ち直している。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・客単価、買上げ点数は上昇している。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・気温の上昇に伴い、春物の動きが良くなっている。東日本大震災の影響が大きかった前年と比べると好転しているが、前々年との比較では、まだまだ厳しい状況にある。
		家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・3月中盤までは2月と同水準で推移していたが、後半以降は新入学、新社会人、転勤による需要が増えてきた。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金の影響が大きい。販売量は、ハイブリッド車を中心に順調に推移している。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・2月以降は受注増と販売増が続いている。エコカー減税の継続とエコカー補助金復活により、新型ハイブリッド車の売行きに効果が表れている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・少しずつ暖かくなり、花見シーズンに入ったので、徐々に売上が上昇している。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・3月の来客数は、前年比で大幅増となった。団体旅行が入ったことによるが、地元による宴会等もそれなりにあり、人の動きが多少出てきている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・春が近づき、お遍路の仕事が少しずつ増えてきた。特に、今年はうろうう年なので、四国八十八箇所を逆に回る「逆打ち」の年であるため、前年と比較して売上は増えている。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・卒業や入学シーズンのため、来客数が増えている。	
	設計事務所（職員）	販売量の動き	・3次補正予算の執行以降、節目の年度末納期により、販売額は上昇している。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・今春、中心商店街に6年ぶりに映画館が復活した。アニメ専門館として、地域と提携してアニメ・イベントを展開する。どこにでも存在するシネマコンプレックスではないため、全国からの集客が期待できる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・春休み、新入学シーズンとなり、親子連れによる新入生の買物特需で商店街の人は多くなっているが、売上増加にはなかなか繋がらない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・送別用商品の注文数が若干増えたが、単価は下落しており、安い商品を沢山贈る傾向がある。
		一般小売店〔菓子〕（総務担当）	販売量の動き	・気温の上昇に伴い販売量は増加しているが、前年と比べて減少している商品もある。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・来客数、売上高共に前年並みとなった。宝飾品、リビング用品、ブランド商品群は苦戦したが、衣料、雑貨などファッション商品は婦人、紳士共に好調に推移した。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・東日本大震災特需のあった前年と比較すると、販売量は減少している。
		スーパー（店長）	それ以外	・前年の東日本大震災により救援物資として特需のあった水、電池などの反動が出ている。日用品は、トマトや塩麹など話題性商品を中心に堅調である。
スーパー（人事）		販売量の動き	・前年は東日本大震災の特需があったため、前年割れとなっている。	
スーパー（統括担当）		単価の動き	・3月は、東日本大震災の影響で増加した前年と比べると来客数、売上共に減少しているが、今年1～2月の流れとしては下落せず順調に推移している。	
コンビニ（総務）		来客数の動き	・来客数は2月に比べ若干良くなっているが、依然として前年割れが続いている。	
家電量販店（店長）	単価の動き	・3か月前と状況は変わらない。来客数の減少に加えて、買上点数も少なく、単価も下落している。特にテレビの単価の下落に歯止めがかからない。		

	家電量販店（店員）	単価の動き	・来客数は新生活需要により増加しているものの、購入点数、単価は予想以上に低く、年末商戦と変わらない水準で推移している。	
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・エコカー補助金により、販売量が増えている。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金効果により、新車販売の市場は前年を上回って推移している。	
	都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・単価の下落に対応した商品を開発したことにより、薄利多売でありながらも売上は全体としてさほど変わらない。	
	通信会社（営業担当）	単価の動き	・型落ちでも廉価商品に人気が集まっている。来店客数及び販売数は前年を大幅に上回っているが、前年は東日本大震災の影響で買い控えがあったため、景気回復とまではいいがたい。	
	通信会社（企画）	お客様の様子	・予想に反して、現状を維持している。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・卒業シーズンで、客単価が一時的に増加したが、来客数は微減している。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・年末年始と比較すると、販売量は下落している。	
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	お客様の様子	・価格をみる消費者の目が厳しく、酒類専門店からドラッグストアへ客が流れている。	
	スーパー（企画担当）	単価の動き	・東日本大震災後に保存食や耐久資材の特需のあった前年と比べると、大きく下落している。	
	スーパー（財務担当）	販売量の動き	・東日本大震災による特需があった反動で、販売量は減少している。	
	旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・国内旅行は、大手テーマパークへの旅行が増えたことで、前年よりも若干販売は増えている。一方、海外旅行は円安基調から3か月前より徐々に販売が減少してきている。	
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・前年よりも来場者数、単価共に減少している。	
	競艇場（職員）	販売量の動き	・3月の売上は、3か月前比20.4%減と大幅減となり、前月比でも5.4%減となった。昨年12月以降、売上は減少傾向である。	
悪くなっている	一般小売店〔乾物〕（店員）	来客数の動き	・客数が非常に少ない。	
企業動向関連	タクシー運転手	お客様の様子	・売上は、3か月前比で20%程度下落している。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・円安による価格競争力の回復、及び復興需要の顕在化により受注、販売共に好調である。	
	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全国的に小売店は上向き傾向にある。特にタオルは高額品の受注が多く、客単価が上昇している。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年明けごろより引き合い件数、受注量が増加してきている。また、清掃事業関連も同様に増加してきている。
		不動産業（経営者）	取引先の様子	・同業者から、広告を打った場合に、以前に比べて反響がやや良くなっているとの話を聞く。
	変わらない	農林水産業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・末端売価が高く、引き合いは強くない。出荷の増量で売価が下がれば需要は高まる。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・輸出台数が若干上向いている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量はまだまだ不足している。
		輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原油価格の高騰や、原子力発電所の停止など取り巻く環境は厳しいが、株価が1万円台に回復したことにより、雰囲気は良いと感じる。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・荷主の販売数量減少による生産調整やコストダウン要請に加えて、原油高でコストも上昇している。
金融業（融資担当）		取引先の様子	・東日本大震災の影響は聞かれなくなったが、高知の観光業界は坂本龍馬効果が薄れ、旅行客は減少傾向にある。	
広告代理店（経営者）		受注量や販売量の動き	・3月は比較的販促予算が多い月であり、前年よりチラシ折込部門・県外得意先の受注は増えたが、地元得意先の多くは従来通り低調であった。	
公認会計士	取引先の様子	・決算や月次の試算表等をみると、概ね前年並みの企業が約75%あり、景気は横ばい状態である。		

	やや悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末でも引き合いが無く、残存工事のみで、大変厳しい。特に再生可能エネルギーの固定価格買取制度関連では価格が決まらないため発注が無く、手持ち無沙汰である。
	悪くなっている	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・久々に大型公共工事の入札に参加した。予定価格を下回る価格で入札したが、それ以上に低価格の入札があり、落札は見込めない。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・年度末は、新規雇用のニーズが高まっている。また、緊急雇用対策事業による求人数も高まっている。
		求人情報誌（営業）	求人数の動き	・求人倍率が改善しつつあることに加えて、中途求人も増えている。ただ、正社員よりもパート求人の割合が多く、一概に良くなっているとはいえない。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・平成24年度の学生向けの求人募集が例年より2か月遅れのスタートであったにもかかわらず、求人数は前年同時期と同程度の数がある。
	変わらない	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人の半数は非正規雇用で占めており、求職者の望む正規雇用の求人は競争が激しくなっている。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・新入社員採用や人事異動などの調整により、求人数が抑制されている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・エコカー減税にエコカー補助金など、今が攻め時のカーディーラーの動向が思ったほどではなく、絞り気味である。建設業界は利益の出る仕事がほとんどない様子である。今後、社会保険料の会社負担が増えるなら、まだ廃業したほうが良いとの声まで聞く。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・当職業安定所における新規求人倍率、有効求人倍率が、前年12月をピークに下降線を描いている。特に、2月の新規求人倍率は、前年12月に比べ、0.5ポイント程度下落している。
職業安定所（職員）		それ以外	・2月の有効求人倍率は0.75倍と、3か月前より0.02ポイント下回った。	
民間職業紹介機関（所長）		周辺企業の様子	・組織内で事業再編に取り組むところが増えており、不採算部門を廃止したり事業を縮小する企業が目立つ。好調な部門へ資金を傾注しようとする方針のためとみられる。	
	悪くなっている	-	-	-